

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 歯周補綴にインプラントを用いた一症例

演者名 森永博臣

日 付 2009年6月23日

keywords

1. インプラント
2. GBR
3. ソケットリフト法による上顎洞挙上術

抄 録

現在、オッセオインテグレーションの概念を導入した歯科インプラント治療により、確実な咬合機能の回復が得られるようになった。

今回、部分的に高度の骨の吸収が見られ、現状では咬合崩壊に至る症例を、インプラントを用いて咬合再構成を行い、良好な結果を得られたので報告する。

患者は55歳の女性で、1999年4月17日に奥歯で物を噛めないという主訴で来院された。

来院した時点で、部分的に高度の骨の吸収が見られ、右上6、2左上2、6は保存不可能と診断し抜歯した。

患者は固定式補綴を希望したため、右上2左上2にはGBR法によりインプラントを植立、また右上6、7左上6にはソケットリフト法によりインプラントを植立し、咬合回復治療を行った。

治療としては、顎位はCO=CRと診断し、診断用ワックスアップを行い、インプラント埋入時のサージカルステントにその情報を反映した。サージカルステントを応用してインプラント埋入し、プロビジョナルレストレーションにて顎位・咀嚼・審美・発音を確認し、最終補綴物へと移行した。

術後8年経過しているが、全体的に良好に経過しており、インプラントの有用性が示唆された症例だと考えている。

諸先生方のご指導よろしく申し上げます。